

第1章 山口大学構内吉田遺跡の位置と環境

吉田遺跡は山口県山口市大字吉田、山口大学構内約720,000 m²にわたって埋存する遺跡群の総称である。山口市は本州の最西端にあたる山口県のほぼ中央部に位置し、南北約12 km、東西最深部約4 kmの紡錘形の盆地内にひらける。四周を圍繞する山塊は、北には涼山、古城ヶ岳、鋤尖山がそびえ、南には姫山、今山、高倉山、黒河内山が迫っている。また、東方は粟ヶ岳、西方は泉山、金山が盆地を閉ざすように展開し、台地をめぐる山塊の谷口には谷頭池が点在している。これらの諸山塊に源を発する入野川、一の坂川、吉敷川、仁保川は榎野川となって合流し、盆地中央部を南西に貫流して小郡湾へと注いでいる。

本遺跡はこの山口盆地の東縁部にあたり、榎野川左岸の沖積低地ならびに洪積台地上に展開する。すなわち、遺跡西部は榎野川の浸食により形成された平川面と呼ばれる沖積段丘上⁽¹⁾に開析された沖積低地の一端を占め、東部は盆地内に入り込むように近接して伸びる姫山および今山から派生した丘陵南麓の洪積台地上に立地する(Fig. 1)。

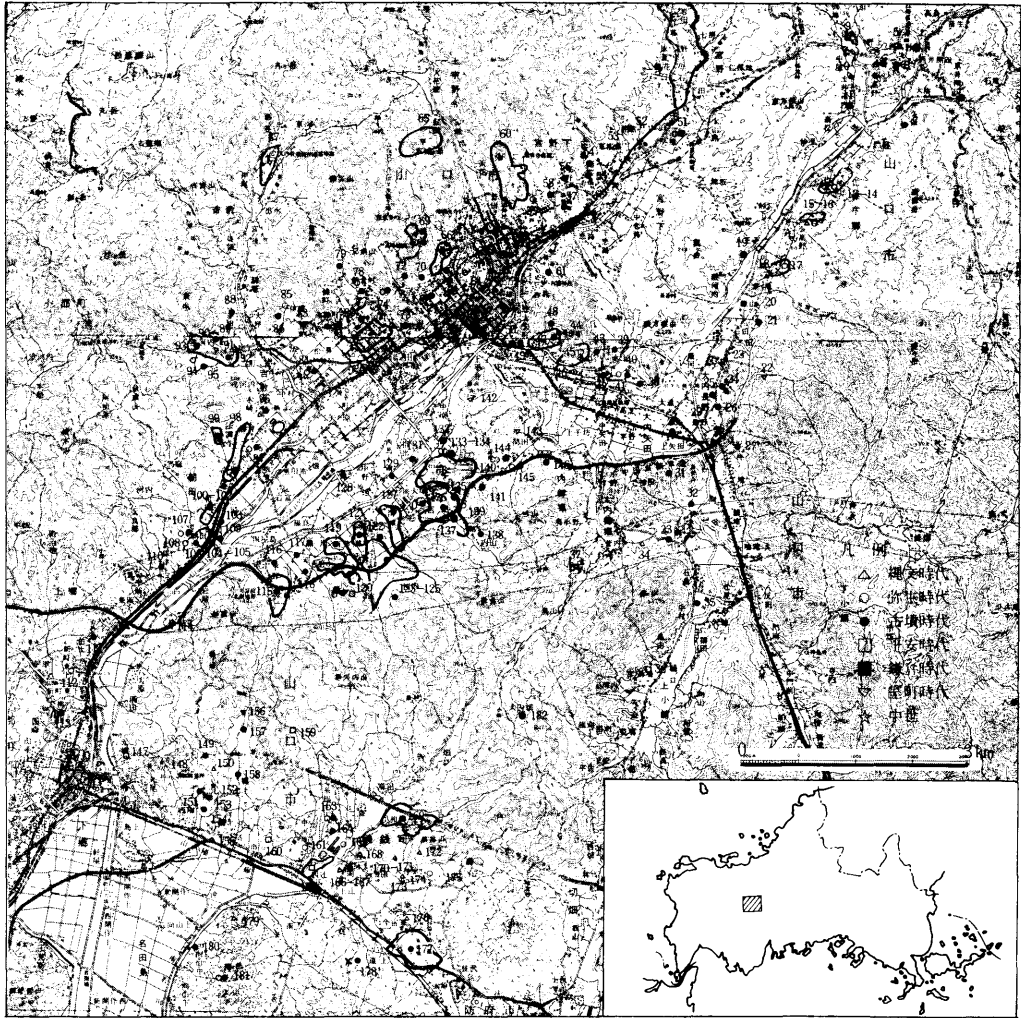
山口盆地周辺では旧石器時代から歴史時代にわたって約200ヶ所以上の遺跡の存在が確認されており、盆地内では本遺跡同様榎野川の氾濫原を除く沖積低地ならびに岡ノ原、桜島、吉田などに形成された洪積台地上に約100ヶ所以上の遺跡⁽²⁾が知られている⁽³⁾。

盆地内における最初の人々の営みは、榎野川右岸においては花の木遺跡⁽⁴⁾、後河原遺跡⁽⁵⁾、木崎遺跡⁽⁶⁾等の縄文時代後期から晩期にかけての遺跡に散発的に認められ、盆地に南面する三つの山塊から派生したそれぞれの微丘陵上をそのフィールドとしている。左岸においては本遺跡から晩期の浅鉢形土器を出土した土壌等が検出されている。

弥生時代になると前代の遺跡を背景に沖積低地を臨む丘陵上あるいは山裾の小低湿地にその拠を拡大してゆく。すなわち、右岸では宮野岡の原遺跡⁽⁷⁾、江良遺跡⁽⁸⁾、亀山遺跡⁽⁹⁾、下東遺跡⁽¹⁰⁾、朝倉大歳遺跡⁽¹¹⁾、伊梶堤遺跡⁽¹²⁾、荻峠遺跡⁽¹³⁾等の集落跡、朝田墳墓群⁽¹⁴⁾等の埋葬跡として展開する。

下東遺跡では主として前期末から中期初頭にかけての土壌36基、溝4条が検出されており、内部から土器のほかに石包丁、扁平片刃石斧、砥石等の遺物およびイネ科を中心とした各種の植物遺体が出土している。調査区域内においてこの時期の住居跡は検出されおらず、また、遺跡の立地、遺構の性格等から推して遺跡の規模はさらに広範囲にわたるものと思われ、住居跡・墓地との連関をうかがわせる資料の増加が期待される。

山口大学構内吉田遺跡の位置と環境



1 吉田遺跡	32 畠田遺跡	63 後河内遺跡	94 滝河内遺跡	125 中村遺跡	156 陶一里塚
2 原河内遺跡	33 毛割遺跡	64 龜山遺跡	95 若宮遺跡	126 五反地遺跡	157 峠堤遺跡
3 笠山経塚	34 原遺跡	65 古城ヶ岳城跡	96 木崎遺跡	127 小路遺跡	158 こぶし堤遺跡
4 藜畑遺跡	35 石島遺跡	66 濁ノ峰古墳群	97 太田遺跡	128 中馬古墳	159 赤根山遺跡
5 榎松遺跡	36 中ヶ道経塚	67 白石古墳群	98 朝田墳墓群	129 馬木遺跡	160 錦鏡坊遺跡
6 高野古遺跡	37 仁平寺跡	68 茶臼山古墳	99 法濟寺遺跡	130 上向家遺跡	161 下赤根遺跡
7 瑞瑞光寺跡	38 金成古墳	69 高嶺城遺跡	100 和田上遺跡	131 郷遺跡	162 周防錦鏡司遺跡
8 台山遺跡	39 妙見社古墳群	70 赤米遺跡	101 和田下遺跡	132 日吉神社横穴群	163 赤根遺跡
9 船山経塚	40 高尾古遺跡	71 山口高校遺跡	102 和田古墳	133 坂本遺跡	164 八ヶ塚遺跡
10 西遺跡	41 仏供田遺跡	72 木戸神社古墳群	103 三作遺跡	134 平井遺跡	165 上北田遺跡
11 平子氏館跡	42 山崎古墳	73 権理山古墳	104 大地西角遺跡	135 平清水石棺	166 東禅寺遺跡
12 片山ヶ原遺跡	43 山崎遺跡	74 萩跡遺跡	105 王子の森墳墓群	136 大塚遺跡	167 黒山遺跡
13 仁保岡の原遺跡	44 西ヶ谷遺跡	75 萩園ヶ森古墳	106 坊ヶ迫遺跡	137 吉田岡鳥遺跡	168 舟木遺跡
14 丸山遺跡	45 入野石棺	76 湯田桑里跡	107 門前石棺	138 神郷大塚遺跡	169 舟木遺跡
15 小高野遺跡Ⅰ	46 入野遺跡	77 朝倉河内古墳群	108 門前遺跡	139 兼ノ尾石棺群	170 桐ヶ浴遺跡
16 小高野遺跡Ⅱ	47 馬塚古墳	78 朝倉大藏遺跡	109 門前古墳	140 吉田大浴遺跡	171 尾口山遺跡
17 東園石棺	48 御堀遺跡	79 朝倉遺跡	110 仁保津遺跡	141 大浴古墳	172 壺釜遺跡
18 東園遺跡	49 御堀石棺	80 楠木町遺跡	111 丸山石棺群	142 姫山城跡	173 天神原遺跡
19 深野氏館跡	50 橋村石棺	81 生目八幡古墳	112 中郷遺跡	143 間田氏館跡	174 弥市原遺跡
20 上南原遺跡	51 宮野岡の原	82 赤妻古墳	113 国森石棺	144 間田山崎遺跡	175 星原遺跡
21 釜山遺跡	52 上忍路古墳	83 土師宮古墳群	114 林覚遺跡	145 間田遺跡	176 河原遺跡
22 四王寺遺跡	53 花の木遺跡	84 下東遺跡	115 堂道遺跡	146 新開古墳	177 長沢池遺跡
23 宮の馬遺跡	54 庵河内遺跡	85 伊根遺跡	116 平野遺跡	147 百合遺跡	178 蓮の上遺跡
24 長野遺跡	55 上ノ山古墳	86 大野石棺	117 釜山古墳群	148 陶窯跡	179 瀬上遺跡
25 大塚古墳群	56 平野古墳	87 渡雲寺遺跡	118 吉野遺跡	149 郷山遺跡	180 向山遺跡
26 荒神山石棺	57 三の宮古墳	88 泉山古墳群	119 西川遺跡	150 白田遺跡	181 陶ヶ岳遺跡
27 長者ヶ原遺跡	58 竹の花遺跡	89 天神山古墳群	120 黒川遺跡	151 釜山遺跡	182 大内畑古墳
28 下長野遺跡Ⅱ	59 江島遺跡	90 堂道古墳	121 岡小路遺跡	152 野津窪跡	
29 下長野遺跡Ⅰ	60 七尾山城跡	91 吉敷毛利屋敷跡	122 広沢寺古墳	153 陶窯跡	
30 生森古墳	61 古帳遺跡	92 天神山古墳	123 小出遺跡	154 地家遺跡	
31 神田山石棺群	62 大内氏館	93 滝河内古墳	124 河内遺跡	155 柏木遺跡	

Fig. 1 山口盆地周辺地形図および遺跡分布図

朝倉大歳遺跡、伊梶堤遺跡は中期の遺跡として把握されている。

朝田墳墓群ではその詳細な時期は不明であるが、前期末の壺棺墓をはじめ丘陵の尾根上に主体は中期から後期にかけての土壙墓、石蓋土壙墓、石囲い墓、箱式石棺墓等が検出されており多様な葬法がみられる。また、相互に質的差異が認められないことなどから集団家族墓的色彩が強いものと推察されている。左岸では問田遺跡、坂本遺跡、吉田遺跡等の集落跡、問田山崎遺跡、乗ノ尾石棺群等の埋葬跡が知られているにすぎず、その内容については不明な点が多い。⁽¹⁵⁾

このように概観すると、比較的早い時期に盆地の北西縁、東縁に相対峙し占地した下東、吉田の両遺跡付近がこの時期の中核的集落としての性格を有していたであろうことは、後代の高塚墳の造営ならびにその前面に広がる肥沃な生産基盤としての沖積低地の存在その他からも推察しうるのである。

古墳時代を迎えると遺跡数は飛躍的に増大し、現在までに300基以上の墳墓、30ヶ所以上の集落跡および遺物包含地が知られている。

墳墓は標高60m以下の盆地縁辺部の低丘陵地および盆地床の独立丘陵上に営まれてはいるものの、朝田墳墓群の一部の例を除いて見られるように傑出した首長者層の墳墓としての高塚墳は天神山古墳群の出現に待たねばならない。すなわち、⁽¹⁷⁾ 竪穴式石室を内部主体にもつ1号墳からは短甲1領のほか武器、農工具が出土し、その形式から5世紀前半に位置づけられている。次いで5世紀後半になると天神山古墳群の東方、直線距離にして約5kmを隔てた丘陵先端部に赤妻古墳が構築される。内部主体は舟形石棺、箱式石棺で、位至三公鏡、巴形銅器などすぐれた副葬品が出土した。⁽¹⁸⁾ 6世紀に到ると強力な首長者層の未分化に伴い個々の可耕地に裏打ちされた小規模な家族墓の様相を帯びようになり、北部九州から招来された竪穴系横口式石室や横穴墓あるいは小円墳をもつ横穴式石室への埋葬へとその葬法を転換してゆく。⁽¹⁹⁾ 鴻ノ峰古墳群、朝倉河内古墳群、茶臼山古墳などがそれである。⁽²⁰⁾ 本遺跡周辺では5世紀代に樵野川右岸においてみられた豊富な副葬品を備えた高塚墳は未発見で、⁽²¹⁾ わずかに日吉神社横穴群、⁽²²⁾ 広沢寺古墳、⁽²³⁾ 大浴古墳等の6世紀から7世紀にかけての墳墓が知られているにすぎない。⁽²⁴⁾

集落跡は丘陵の先端部あるいは小河川により形成された扇状地を中心に営まれ、下東遺跡、本遺跡等で竪穴式住居が検出されている。また、糸米遺跡、湯田楠木町遺跡、和田遺跡、堂道遺跡等をはじめとする遺物包含地の位置づけも今後の興味ある課題である。⁽²⁵⁾

律令制下における本遺跡周辺は、『防長地名淵鑑』および『山口県文化史』によれば、

吉敷郡浮囚郷に比定されている。この時代における盆地内の遺跡はあまり知られておらず、わずかに黒川遺跡⁽²⁷⁾等における掘立柱建物跡、溝などにより知るのみである。

下って室町時代になると、大内氏ゆかりの遺跡が数多く残されるようになる。国指定史跡として著名な大内氏館跡、築山館跡、高嶺遺跡、凌雲寺跡などである。大内氏館跡の発掘調査は昭和53年から計画的に実施されており掘立柱建物跡、園池、溝、土塁等が検出されている。また、各遺構からは土師器、瓦器、軒平・軒丸瓦、陶磁器、鞆口、鉾滓などの多様な遺物が出土しており⁽²⁸⁾当時が偲ばれる。

しかし、栄華を誇った大内氏も31代義隆のとき陶氏の力に屈し、以後、大内氏第一の家臣であった毛利氏の治世へと歴史の舞台は移ってゆく。

〔註〕

- (1) 山口県立山口博物館 「山口県の地質」 1975
- (2) 註(1)に同じ。
- (3) 山口県教育委員会 「山口県遺跡地図」 1972
山口市教育委員会 「山口市文化財地図」 1981
- (4) 昭和38年に土器、石器等が採集されている。
- (5) 昭和27年に遺物が採集されている。三坂圭治 「山口県の歴史」
- (6) 山口県教育委員会 「朝田墳墓群Ⅰ・木崎遺跡」 山口県文化財調査報告第32集 1976
- (7) 昭和26年に弥生式土器、石鏃等が採集されている。
- (8) 山口市史編纂委員会 「山口市史一名説篇一」 1971
- (9) 亀山公園北麓から弥生式土器、磨製石斧、叩石等が出土している。弘津史文「防長石器時代資料」1929
- (10) 山口県教育委員会 「下東遺跡・荻峠遺跡」 山口県埋蔵文化財調査報告第30集 1975
- (11) 出土遺物は山口市歴史民俗資料館に保管されている。
- (12) 山口考古学談話会における森田孝一氏の発表資料による。
- (13) 註(10)に同じ。
- (14) 註(6)に同じ。
山口県教育委員会 「朝田墳墓群Ⅱ・鴻ノ峰1号墳」 山口県埋蔵文化財調査報告第33集 1977
同 上 「朝田墳墓群Ⅲ」 山口県埋蔵文化財調査報告第37集 1978
同 上 「朝田墳墓群Ⅲ-BⅣ・糸米遺跡」 山口県埋蔵文化財調査報告第45集 1979
- (15) 小野忠照 「山口大学吉田遺跡」 『考古学ジャーナル』 第9号 1967
同上 「山口大学構内吉田遺跡の性格」 『学園だより』 第6号 山口大学 1970
山口大学吉田遺跡調査団 「山口大学構内吉田遺跡発掘調査概報」 1976
- (16) 山口県教育委員会 「美祢市内川古墳・山口市乗ノ尾遺跡」 山口県埋蔵文化財調査報告第24集
現在、平清水八幡宮境内に移築復原されている。
- (17) 山口市教育委員会 「天神山古墳」 山口市埋蔵文化財調査報告第8集 1979
- (18) 弘津史文 「周防國赤妻古墳並茶臼山古墳(其一)」 『考古学雑誌』 18-4 1928
- (19) 註(14)と同じ。
- (20) 朝倉河内古墳群発掘調査委員会 「朝倉河内古墳群調査報告」 山口市埋蔵文化財調査報告第4集 1975
- (21) 弘津史文 「周防國赤妻古墳並茶臼山古墳(其二)」 『考古学雑誌』 18-5 1928
- (22) 大正7年に地元の青年団により調査が行なわれ、金環、鉄剣、須恵器等が出土している。出土品は山口県立山口博物館に保管されている。
- (23) 横穴式石室を内部主体にもつ小円墳。
- (24) 山口県教育委員会 「吉田岡島・吉田大浴・下長野遺跡」 山口県埋蔵文化財調査報告第23集 1973
- (25) 山口市教育委員会 「湯田楠木町遺跡第Ⅰ地区」 山口市埋蔵文化財調査報告 1975
同 上 「湯田楠木町遺跡第Ⅱ地区」 山口市埋蔵文化財調査報告第5集 1976
- (26) 山口県教育委員会 「堂道・五反地遺跡」 山口県埋蔵文化財調査報告第22集 1973
- (27) 同 上 「黒川遺跡」 山口県埋蔵文化財調査報告第57集 1980
- (28) 山口市教育委員会 「大内氏館跡Ⅰ」 山口市埋蔵文化財調査報告第9集 1981
同 上 「大内氏館跡Ⅱ」 山口市埋蔵文化財調査報告第10集 1980
同 上 「大内氏館跡Ⅲ」 山口市埋蔵文化財調査報告第11集 1981